



Kobe Shoin Women's University Repository

Title	近過去の女性名（その3） Japanese Women's Names in the Near Past (Part 3)
Author(s)	野元 菊雄（NOMOTO Kikuo）
<i>Citation</i>	文林（BUNRIN）, No.32 : 17-35
Issue Date	1998
Resource Type	Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

近過去の女性名（その3）

野 元 菊 雄

これまでの研究

「近過去の女性名」という題で、本誌に発表するのは2回目です。にもかかわらずここに（その3）としましたのは（その2）を中間で別のところに平成8年に発表しているからです。

実はその間にもう一つ「フミコ考」というのを発表しています。

（その1）は、この雑誌「文林」第30号ですので、本号を読む方は何とか入手できると思います。これは改めては紹介の必要はない、と考えますが、他の二つについてはここで概略を述べておきます。

（その2）は平山輝男博士米寿記念会編の「日本語研究諸領域の視点」の上巻（平成8年10月28日、明治書院）に発表したものです。平山先生は方言研究の大家ですので、命名の地域差ということを考えてのですが、思ったほどは地域差は出ませんでした。しかし、大略は次のようでした。

名まえについて敏感なのは（と言うことは変化が早いのは）近畿地方であるようです。九州北部と山口県も相当高い、と言っていいでしょう。関東は西半分が高く、これは長野県にも連なります。愛知県も高いのですから、結局は大都市とその影響の及ぶところ、ということになる、と思います。（その1）では南関東に注目していたのですが、残念ながらこれは正

しくはなかったようです。

東北地方はあまり先進的、つまり名まえの新傾向を先取りする、とは言えないようです。この点では、山口県を除いた中国地方と、北陸と近畿に入りますけれども滋賀県とが同じく先進的とは言えないようです。

（その1）で見ましたように、時代による推移の外に、地域による傾向も確かにある、と言っていいでしょう。しかし、このことをはっきり言うためには、ただ都道府県別だけでなく、少なくとも東京23区と政令指定都市は別に集計すべきでしたが、この資料の関係でこれはできませんでした。

「フミコ考」は「日本語教育論文集—小出詞子先生退職記念」（1997年6月28日、凡人社）に発表しました。小出先生のお名まえがフミコさんですので、その名に関したことを書きました。（その1）に使ったものとおなじく、総数142,567のうち、フミコは703人で、これは全体の0.49%です。

残念ながら先生の「詞子」をフミコと読む人は現れませんでした。表記で一番多いのはもちろん「文子」で全体で310人、全フミコの44.10%となります。以下6番目まで「富美子」「史子」「ふみ子」「富美子」「フミ子」となり、全部で35種類の表記があり、それらについての考察も加えました。

「-子」で終わるのは、このフミコの場合、10種類、393人です。これが、今回の（その3）につながるわけです。

今回の資料

資料としましては、（その1）で扱った14万余のものでは作業が大変です。ですので5分の1のサンプリングによって得ることにしました。サイコロを振ったところ「2」と出ましたので、以下原資料の、2, 7, 12, 17,...と五つ置き名まえを拾って、今回以降の資料とすることにしました。

近過去の女性名（その3）

その総資料数は28,686でした。原資料は（その1）にも書きましたように、ある生命保険会社の契約者の全女性ですが、この28,686を5倍いたしますと143,430となり、この方が（その1）の資料より900人足らず多くなってしまう。その理由は、（その1）ではそこに書きましたように、同日生まれ、同一読み、同一表記の方が複数ある場合は、その名まえはダブリとして一つだけ拾う、ということにしたことに主としてある、と思います。その他にも（その1）に述べましたように少々省いたものがありました。今回は正確にサンプリング間隔5で名まえを拾いました。こうした場合はダブリは一つも出てきませんでした。つまり上の条件で同じ名まえが五つ以上並んでいることはありませんでした。このような差が出てきますと、わたしに資料を提供してくれた友人の、どんな場合でも出てきた限りは全部数えるべきだ、という方針に従っておいた方がよかったか、と思いますが、もう恢復はむずかしいでしょう。

（その1）で述べましたように、このデータは平成4年までのものです。今これを発表するのは平成10年ですから古いと言えば古いのですが、わたしに資料を提供してくれたわたしの友人はその後亡くなったので補充の手だてを失っています。したがってなるべく早く結果を出したいのですが、わたし個人の時間の都合で、なかなか思うに任せません。

（その1）では、**第1表**に「生年別実数」、**第2表**に「生年別構成比率」を挙げましたが、今回はサンプリングですけれども、以後の基礎の数字となりますので、「生年階層別都道府県別実数」をまず**第1表**として挙げます。

第1表 生年階層別都道府県別実数

	T	S2-	S6-	S11-	S16-	S21-	S25-	S30-	S35-	S40-	S45-	S50-	S55-	S60-	H	計
北海道	3	11	28	37	65	82	112	117	148	190	220	98	86	69	190	1456
青森	1	2	3	9	11	14	20	25	36	49	45	20	25	23	53	336
岩手	1	4	7	11	14	21	27	39	50	59	60	27	24	29	81	454
宮城	3	4	8	16	18	27	33	35	44	76	69	20	29	27	70	479
秋田	3	3	6	5	7	10	11	15	17	25	27	12	11	9	28	189
山形	2	3	5	5	8	12	17	22	27	37	44	15	13	16	32	258
福島	2	5	10	10	15	21	30	30	40	52	66	31	30	24	77	443
茨城	3	4	9	11	24	26	41	32	41	67	67	28	29	25	87	494
栃木	2	3	8	8	14	22	23	27	28	47	53	24	21	22	56	358
群馬	3	6	6	10	18	26	31	38	48	71	70	26	31	32	103	519
埼玉	14	19	45	79	126	135	145	140	230	363	359	150	125	104	355	2389
千葉	8	12	32	54	101	108	130	117	163	292	291	114	95	87	240	1844
東京都	35	46	99	140	204	231	264	275	427	631	462	173	161	142	485	3775
神奈川	16	21	54	82	133	148	171	174	260	412	362	150	127	114	401	2658
新潟	4	2	2	7	11	11	21	19	22	35	30	16	16	15	41	252
富山	1	1	3	5	13	18	25	30	37	51	42	14	18	13	38	309
石川	1	1	3	7	9	11	21	23	23	26	43	12	11	8	31	230
福井	0	1	3	3	9	12	17	16	20	24	45	11	10	9	23	203
山梨	1	1	2	2	6	5	9	15	13	15	17	8	9	7	22	132
長野	3	3	5	5	9	15	19	25	23	47	46	18	17	18	56	309
岐阜	1	2	4	7	12	18	26	24	31	48	44	17	18	12	65	329
静岡県	4	8	14	29	45	51	57	59	89	138	146	55	46	46	149	936
愛知	4	10	20	35	61	70	87	85	117	189	190	68	69	58	229	1292
三重	1	2	5	9	18	19	26	30	33	48	49	24	26	18	49	357
滋賀	0	1	3	5	6	9	11	12	16	24	26	9	9	9	26	166
京都	5	6	9	14	21	28	29	29	42	59	53	24	19	16	66	420
大阪	8	15	38	55	83	91	111	106	165	238	230	92	94	88	234	1648
兵庫	10	12	28	37	56	65	72	81	109	178	153	70	69	60	192	1192
奈良	1	2	2	7	11	15	16	16	26	30	26	15	12	9	44	232
和歌山	1	1	4	3	8	7	11	14	15	25	25	12	13	11	26	176
鳥取	1	1	3	1	6	5	7	10	12	14	16	4	7	7	17	111
島根	1	1	2	2	4	5	5	9	9	19	16	6	7	6	15	107
岡山	2	1	2	4	8	9	13	18	19	27	30	14	14	12	43	216
広島	2	2	4	7	15	13	23	26	36	56	58	22	24	19	64	371
山口	3	3	7	6	13	19	22	21	24	31	36	19	15	13	37	269
徳島	1	2	2	5	9	10	14	20	28	45	35	9	9	8	26	223
香川	1	1	3	4	6	8	12	13	20	26	31	9	10	6	29	179
愛媛	1	3	6	5	10	17	24	24	35	46	48	21	18	16	43	317
高知	1	1	2	4	5	6	9	11	14	15	15	6	6	6	13	114
福岡	5	8	23	32	57	76	94	106	122	202	190	88	73	57	152	1285
佐賀	1	0	2	2	5	7	14	12	17	27	29	11	10	14	26	177
長崎	1	4	3	6	13	15	22	20	26	49	51	17	17	17	46	307
熊本	1	3	6	8	12	18	30	30	33	47	44	19	21	13	46	331
大分	1	2	2	9	11	16	21	20	25	35	36	20	16	12	35	261
宮崎	0	0	3	3	7	12	20	24	24	38	55	18	19	15	39	277
鹿児島	1	0	2	3	6	5	11	10	13	16	20	8	7	7	14	123
沖縄	1	0	0	3	5	5	14	21	25	43	26	7	11	12	43	216
総計	165	243	537	811	1328	1574	1968	2065	2822	4282	4096	1651	1547	1360	4237	28686

-コにつく名まえ

今回の主な集計は-コにつく名まえです。(その1)では-子につく名まえとしましたが、今回は読み方の最後がコのをすべて拾うことにしました。したがって(その1)よりは比率で少し多くなるはずです。

全体では-コにつく名まえは13,379人いましたが、これは全数に対して46.64%です(第3表の右下の数字)。この比率は年々減っているはずです。

資料の限りでは、46%台の道府県は、北海道、宮城、埼玉、石川、大阪、岡山、福岡、長崎、熊本、で九つあります。特別な地域的傾向はないようです。

これより多い都府県は、青森、岩手、秋田、福島、栃木、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、京都、奈良、鳥取、山口、鹿児島、沖縄、で、全部で16あります。これは東北・関東に多いようです。

30%台と低いのは、福井、長野、愛媛、高知、の4県です。

その他は、40-46%というところですが、中部・四国・九州が少ない方でありましょう。

ただ、これらの比率は、青森の52.38%を最高に、高知の30.70%が最低ですが、サンプルの少ない県は少しこの数字の安定性を欠いているかも知れません。

音読みと訓読み

「-子」は言うまでもなく訓読みですが、その前の漢字を音で読むか訓で読むかの問題があります。このことを調べてみました。

ここでは、「現代漢語例解辞典」(監修林大氏、1992年1月20日、小学館)

で音の読みとなっているものを「音」とし、「音」となっていないものを「訓」とすることにしました。

同じ読み方でも、音と訓とに分かれる場合がもちろんあります。例えば同じマイ-コでも音であれば「米子」(ヨネコでなく)ですし、訓であれば「舞子」になります。これは2字の場合ですが、同じマイ-コでも、3字ですと、「音音子」は「麻衣子」、「音訓子」は「磨亥子」、「訓音子」は「間囀子」、「訓訓子」は「真猪子」と、これらはあまり実際にあった名まえではありませんが例を挙げておきます。

上のように定義しておきますと、変なことも起こりました。「佳子」をケイコと読ます人がいます。しかし、普通の漢和辞典では「佳」にケイという音は認めておりません。したがって、上の定義に従えば、これは「音子」ではなく「訓子」ということになってしまいます。多分、命名者の意識としては「音子」のつもりでありましょう。いろいろの名付けの本でもわたしの見た限りでは「佳」にはケイの読みは出ていません。つまり完全な誤りとすべきもの、と思います。この原因は多分かのシンガーソングライター小椋佳氏の存在を無視できない、と思って調べてみました。小椋氏がデビューしたのは1970年(S45)で、「シクラメンのかほり」が世に出たのはS50年です。なお、歴史的仮名遣いであれば「かをり」のはずですから、二重に誤っていることになります。

それはさておき、こういうケイコさんは、全部で23人です。S11- 1人、S21- 1人、S25- 2人、S30- 1人、S35- 4人、S40- 7人、S45- 5人、S50- 1人、H 1人、となっています。小椋氏の影響はS45-、S50-が少し多いようではありますが、それほど多くないように思われます。

近過去の女性名（その3）

地域別では、京都・大阪・熊本各1人、福岡3人が西日本で、あとは東日本が主となっています。埼玉2人、東京6人、神奈川3人と首都圏が多くなっています。

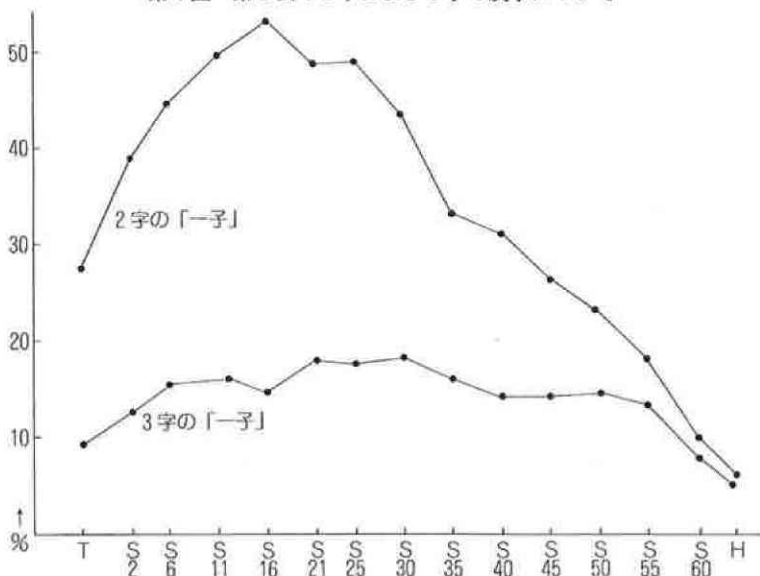
また、中には同じ字に音と訓との両方が同じ読みが載っている場合があります。例えば、「邪」という字には、音「ヤ」と訓「や」とが両方上述の辞典には載っています。このようなときは他の漢字の読みが音か訓かによってその都度判断することとしておきました。

少し回り道をしましたが、「音子」以下の6種類についての集計表を第2表として示し、一部を第1図、第2図としてみましょう。また、第2表のデータの一部を都道府県別にして、実数・比率を第3表にまとめてみます。

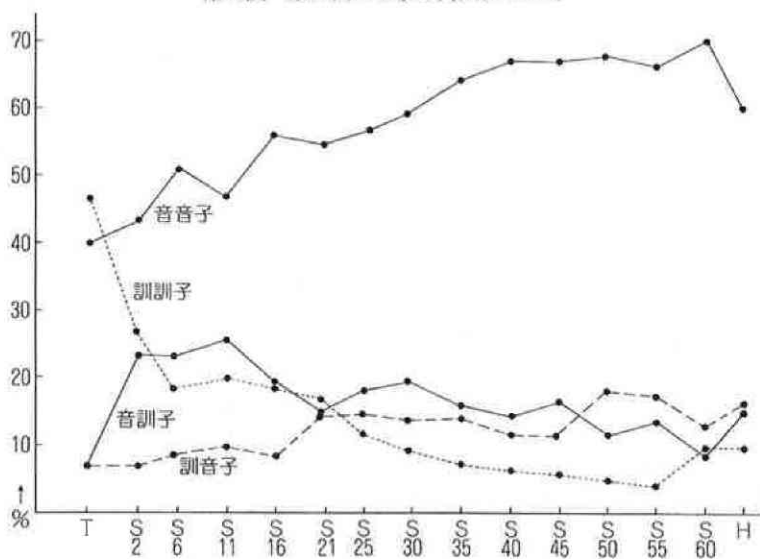
第2表 生年階層別音訓別比率

	2 字			3 字				
	音子	訓子	全体での%	音音子	音訓子	訓音子	訓訓子	全体での%
T	17.78	82.22	27.27	40.00	6.67	6.67	46.66	9.09
S 2-	18.95	81.05	39.09	43.33	23.33	6.67	26.67	12.35
S 6-	25.94	74.06	44.51	50.60	22.89	8.44	18.07	15.46
S 11-	30.35	69.65	49.57	46.46	25.20	8.66	19.68	15.66
S 16-	27.17	72.83	52.94	55.55	19.19	7.58	17.68	14.91
S 21-	35.09	64.91	47.08	54.31	14.75	14.03	16.91	17.66
S 25-	41.16	58.84	47.41	56.23	17.68	14.20	11.81	17.53
S 30-	41.70	58.30	42.62	58.78	18.88	13.30	9.04	18.21
S 35-	40.25	59.75	34.34	63.58	15.45	13.68	7.29	16.05
S 40-	39.08	60.92	36.13	66.07	14.43	13.11	6.39	14.25
S 45-	41.38	58.62	26.61	65.98	16.07	12.48	5.47	14.28
S 50-	45.12	54.88	22.96	66.80	11.07	17.62	4.51	14.78
S 55-	41.33	58.67	17.52	65.62	13.02	17.19	4.17	12.41
S 60-	40.74	59.26	9.93	69.81	8.49	12.27	9.43	7.79
H	45.06	54.94	5.97	59.91	14.74	15.67	9.68	5.12
合計	38.11	61.89	29.50	61.14	15.88	13.38	9.50	13.47

第1図 第2表の2字および3字の漢字について



第2図 第2表の3字の内訳について



近過去の女性名（その3）

第3表 都道府県別音訓別実数および比率

	3音節2字の「子」			3音節2字の「子」												-つの合計	全数での%
	音子	訓子	訓子の%	音音子		音訓子		訓音子		訓訓子		カカ子		ひひ子			
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
北海道	147	262	64.06	129	50.00	35	13.57	33	12.79	21	8.14	17	6.59	23	8.91	673	46.22
青森	38	63	62.38	31	41.33	8	10.67	14	18.67	7	9.23	5	6.67	10	13.33	176	52.38
岩手	61	68	52.71	37	41.57	4	4.49	11	12.36	7	7.87	16	17.98	14	15.73	219	48.24
宮城	49	85	63.43	24	28.24	22	25.88	9	10.59			5	5.88	25	29.41	222	46.35
秋田	24	40	62.50	17	39.53	4	9.31	4	9.31	6	13.95	6	13.95	6	13.95	107	56.61
山形	30	37	55.22	25	52.08	4	8.33	3	6.25	8	16.67	3	6.25	5	10.42	115	44.57
福島	52	82	61.19	30	35.30	14	16.47	8	9.41	6	7.06	17	20.00	10	11.76	221	49.89
茨城	56	90	61.64	34	43.04	10	12.66	4	5.06	10	12.66	5	6.33	16	20.25	225	45.55
栃木	45	78	63.41	24	53.34	8	17.78	1	2.22	1	2.22	6	13.33	5	11.11	169	47.21
群馬	43	78	64.46	49	46.23	17	16.04	6	5.66	10	9.43	5	4.72	19	17.92	229	44.12
埼玉	287	428	59.86	188	47.72	43	10.91	42	10.66	35	8.88	27	6.85	59	14.98	1112	46.55
千葉	235	356	60.24	157	49.68	39	10.34	29	9.18	25	7.91	21	6.65	45	14.24	912	49.46
東京	457	761	62.48	340	50.52	78	11.59	78	11.59	50	7.43	36	5.35	91	13.52	1909	50.57
神奈川	309	491	61.38	238	52.65	49	10.84	48	10.62	40	8.85	23	5.09	54	11.95	1264	48.15
新潟	27	62	69.66	13	38.24	5	14.71	4	11.76	1	2.74	7	20.59	4	11.76	123	48.81
富山	29	67	69.79	35	61.40	7	12.28	6	10.53	4	7.02	2	3.51	3	5.26	155	50.16
石川	29	36	55.38	18	42.86	5	11.90	7	16.67	5	11.90	2	4.77	5	11.90	79	38.92
福井	23	29	55.77	17	62.97	5	18.52			3	11.11	1	3.70	1	3.70	108	46.96
山梨	12	15	55.56	16	50.00	3	9.37	5	15.63	1	3.13	4	12.50	3	9.30	59	44.70
長野	27	52	65.82	22	50.00	7	15.91	2	4.55	2	4.55	1	2.27	10	22.72	123	39.81
岐阜	31	59	65.56	20	39.22	11	21.57	9	17.65	3	5.88	2	3.92	6	11.76	141	42.86
静岡	74	175	70.28	71	47.02	20	13.24	12	7.95	13	8.61	5	3.31	30	19.87	404	43.16
愛知	124	196	61.25	98	48.28	22	10.84	22	10.84	12	5.91	13	6.40	36	17.73	526	40.71
三重	28	73	72.28	31	51.67	7	11.67	5	8.33	6	10.00			11	18.33	162	45.38
滋賀	16	31	65.96	14	53.85	4	15.38	2	7.69	1	3.85			5	19.23	74	44.58
京都	46	98	68.06	35	53.03	13	19.69	6	9.09	5	7.58	1	1.52	6	9.09	211	50.24
大阪	212	302	58.75	128	52.45	25	10.25	33	13.52	17	6.97	19	7.79	22	9.02	762	46.24
兵庫	128	207	61.79	94	49.74	32	16.93	26	13.76	7	3.70	11	5.82	19	10.05	531	44.55
奈良	23	45	66.17	22	51.16	6	13.95	5	11.63	2	4.65	3	6.98	5	11.63	113	48.71
和歌山	22	27	55.10	11	42.31	5	19.23	4	15.38	1	3.85	2	7.69	3	11.50	75	42.61
鳥取	19	16	45.91	11	47.83	3	13.04	6	26.08	2	8.70			1	4.35	58	52.25
島根	10	17	62.96	9	50.00	2	11.11	1	5.56	5	22.77			1	5.56	45	42.06
岡山	29	33	53.23	16	45.72	5	14.29	6	17.14	6	17.14			2	5.71	100	46.30
広島	35	60	63.16	30	56.61	9	16.98	5	9.43	4	7.55	5	9.43			150	40.43
山口	28	58	67.44	24	52.17	8	17.39	4	8.70	4	8.70	3	6.52	3	6.52	133	49.44
徳島	23	47	67.14	10	40.00	7	28.00	4	16.00	2	8.00	1	4.00	1	4.00	98	43.95
香川	22	28	56.00	16	64.00	3	12.00	1	4.00	2	8.00	3	12.00			76	42.45
愛媛	31	45	59.21	20	52.63	3	7.90	2	5.26	5	13.16	7	18.42	1	2.63	118	37.22
高知	11	13	54.17	6	54.55	1	9.09	2	18.18	1	9.09			1	9.09	35	30.70
福岡	138	233	62.80	132	59.73	24	10.86	16	7.24	12	5.43	21	9.50	16	7.24	600	46.69
佐賀	14	31	68.89	10	37.04	6	22.22	4	14.82	1	3.70	4	14.81	2	7.41	72	40.68
長崎	32	60	65.22	26	53.06	7	14.28	6	12.25	1	2.04	3	6.12	6	12.25	143	46.58
熊本	38	61	61.62	20	39.04	5	9.26	8	14.81	3	5.56	10	18.52	8	14.81	154	46.53
大分	26	44	62.86	23	58.98	4	10.26	3	7.69	2	5.13	1	2.56	6	15.38	110	42.15
宮崎	39	46	54.12	21	52.50	5	12.50	1	2.50	5	12.50	3	7.50	5	12.50	127	45.85
鹿児島	14	19	57.58	8	32.00	2	8.00	3	12.00	3	12.00	6	24.00	3	12.00	59	47.97
沖縄	32	34	51.52	13	36.11	8	22.22	7	19.44	4	11.11	2	5.65	2	5.65	102	47.22
計	3225	5238	61.89	2363	49.14	614	12.77	517	10.75	371	7.72	334	6.95	609	12.67	13379	46.64

以上の表と図とについて考察することになります。

まず、3音節漢字2字で「-子」を（その1）では「雅子様型」とし、同じく漢字3字で「-子」を「美智子様型」としましたがけれども、音・訓ということを入れて、この（その3）では、前者は「訓子」、後者は「音音子」としていますので、以後はこの新しい名で呼ぶことにします。

ここでは、漢字2字で「-子」で終わるものとしては、この最初の漢字が音読みか訓読みか、という問題となります。訓読みの方が大体62対38で多いのですが、大正から昭和の初めごろは80%台であったのがだんだん少なくなって、平成になると55%となってしまいます。逆にもちろん音読みはそれだけ増えることになります。

「音子」がわたしのデータの最初に少なかったのは、コが訓なので重箱読みを嫌う意識が少し残っていたもの、'と思います。このタブーが解けて「音子」が多くなったのでしょう。大体「-子」は昔は接尾辞だという意識が強くあったようで、田丸卓郎氏の「ローマ字文の研究」（1920年）などでは女性名の「-子」はローマ字では-koとハイフンをつけることになっていました。例えば、本名が「梅(ウメ)」であれば、他人から軽い敬意や親しみをこめて「おうめさん」とか「梅子さん」とか呼ばれていたことは明治・大正の文学に見られるとおりです。

「音子」と「訓子」とを合計したものが、全部に対する％は、（その1）に書いたところとほとんど同じで、S16-に最高に達して、両側に低くなっています。このタイプはHでは6％に過ぎませんから、もう女性名の代表とは言えないだろう、と思います。

漢字3字の名まえで「-子」で終わるものは、漢字2字の方よりも遅くピークに達する、ということで、2字の方よりも細かい一致はありません

けれども、大筋としては（その1）で述べたこととそう変わってはいません。

四つの種類に分けたものでは、大ざっぱに言って、「音音子」は漸増傾向にあり、「三重子」、「今日子」のようなものを含む「訓訓子」は漸減傾向にあり、最初一番多かったのが急激に下がり、戦後は一番少なくなっています。これは2字の方の「音子」と「訓子」とに平行している、と言っていいでしょうが、2字よりはもう少し音の方に傾いているようです。また、「音音子」を除いた3種類については、第2図にも示すように、最近になって、少し上がってきたようですが、これはもう少し経過を見ないとはっきりしません。

これらの図では、（その1）で示した図と比べると、2字の方ではほとんど同じである、と言ってよかろうと思いますが、3字の方では（その1）で示したものよりも安定性が悪いと思います。5分の1の故でありましょう。

第3表の3字の6種類の都道府県別の方では、「音音子」が最高香川の64.00%、最低宮城の28.24%、「音訓子」が最高徳島の28.00%、最低岩手の4.49%、「訓音子」が最高鳥取の26.08%、「訓訓子」が最高島根の22.77%、「カカ子」が最高鹿児島島の24.00%、「ひひ子」が最高宮城の29.41%で、「訓音子」以下の四つは最低は0.00%です。県名は第3表で見てください。そう見ると都道府県で差があるようですが、計算しながらの感じでは割に安定しているように思いました。

「良子」「幸子」の読み方について

読み方が漢字だけでは確立していないものから上の二つについて都道府県別に示すと第4表のようになります。

第4表 「良子」「幸子」の読み方 都道府県別実数

	良 子			幸 子		
	リョウコ	ヨシコ	ナガコ	サチコ	ユキコ	コウコ
北海道	4	1		9	1	
青森				6	1	
岩手	4			7		2
宮城		1		4	2	
秋田	2			3		1
山形	1			4		
福島		1		4	2	
茨城	1		1	4		
群馬		1		4		
埼玉	4	11		15	2	
千葉	2	4		14	3	
東京	6	6		35	4	
神奈川	1	2	3	18	3	
新潟	1	1				
富山				3		
石川	1				1	
福井				2		
長野	1	1		1	1	
岐阜		1		1		
静岡	2	2	1	7	2	
愛知		2		11	3	
三重		1		2	2	
滋賀				3		
京都	1			6	1	
大阪	3	1		12	1	
兵庫	1	4		4	5	
奈良				2	1	
和歌山				2		
徳島				3	1	
山口		1		1		
徳島				1	4	
香川				1		
愛媛				2		
高知					1	
福岡	1			4	1	
佐賀				1		
長崎				1	1	
熊本				2		
大分				2		
宮崎	1			1		
鹿児島		1		1		
沖縄	1					
計	38	42	5	203	43	3

音か訓かの観点では「良子」が問題です。わたしなどは「良子」と見るとヨシコと普通には読みますが、中野良子さんという女優さんがいてこれ

はリョウコです。表に示してないのは、栃木、山梨、和歌山、鳥取、岡山、の5県で、ここには「良子」「幸子」がなかったわけです。

そこでこれはどちらが多いかを数えてみますと、音でリョウコは38人で、訓でヨシコは42人と、ヨシコの方がわずかに多くなっていますが大した差ではありません。訓には他にナガコの5人がいます。これは今の皇太後の名ですが、すべてSの時代、すなわち皇后時代の生まれです。

生まれた年によって違いがあるのかを見てみます。まずリョウコは、T 1人、S6- 2人、S11- 2人、S16- 2人、S21- 9人、S25- 3人、S30- 8人、S35- 1人、S45- 3人、S50- 5人、S55- 2人、というのに対してヨシコは、T 1人、S6- 2人、S11- 2人、S16- 7人、S21- 7人、S25- 5人、S30- 3人、S35- 4人、S40- 6人、S45- 3人、S50- 2人、となっています。比較をしますと、ヨシコの方がわずかに早いようですが大した差ではありません。なおナガコは、S6-、S16-、S25-、S30-、S50- 各1人となっています。

地域別ですと、北海道・東北はリョウコが多く、関東となるとヨシコの方が優勢です（埼玉は4対11、千葉は2対4でヨシコ優勢ですが、東京は6対6で同数です）。東海もどちらかと言うとヨシコですが、関西はあまり差がなく、九州はリョウコ優勢です。しかし、地域差はそうはっきり言えないような気がします。上に述べたところでは国の両端がリョウコ的ではありますが、周囲論というわけにもいかないのではないのでしょうか。「良子」自身が西日本には少ないのです。ちなみに、ナガコは、茨城、静岡、各1と、神奈川、3となっています。神奈川は多いのですが、総計でそう多くはないので何とも言えないように思います。第4表に示しましたように、茨城は他にリョウコ1、神奈川はリョウコ1、ヨシコ2で、静岡

はリョウコ、ヨシコ各2でした。

「幸子」については、(その1)でコウコは非常に少なく、サチコが多く、ユキコはそれほど多くない、としました。これは調べている途中での印象でしたが、このサンプリング調査でもそのとおりに出ました。「幸子」とあったらサチコと読めば80%は当たる、ということになります。わたし自身は「幸子」はユキコと読む方でユキコはもっと多いかと思っていました。

ユキコが多い地方はそれほどはっきりしません。兵庫と徳島とはサチコよりユキコが多くて、しかも近くに位置している、という点で注目されますが、これは偶然である可能性も高いのではないのでしょうか。

この「幸子」を生年の階層(ブロック)別に分けて数えると次のようになります。

サチコは、T 1人、S6- 10人、S11- 12人、S16- 18人、S21- 25人、S25- 17人、S30- 24人、S35- 26人、S40- 30人、S45- 22人、S50- 7人、S55- 7人、H 4人。

ユキコは、T 1人、S6- 3人、S11- 2人、S16- 2人、S21- 8人、S25- 1人、S30- 8人、S35- 3人、S40- 7人、S45- 8人。

音読みのコウコは、S30-、S40-、S45-、各1人。

ユキコが少し古いのか、とも思いましたが、総数のサチコ203人、ユキコ43人という差を考えれば、そのような傾向はない、と言っていいでしょう。

その他の3音節2漢字で「-子」で終わる個々の名まえとその表記については、次の機会を待ちたい、と思います。

その他の「-子」について

まず、ひらがなを「ひ」、カタカナを「カ」で示しますと、「カカ子」が全部で334で、-コ全体の2.50%、「ひひ子」が609で、4.55%となります。傾向としては（その1）でも書きましたように、カタカナの方が名まえに使われる文字としては古いので、「カカ子」の方が古く、「ひひ子」の方が新しいようです。なお「ひカ子」や「カひ子」のようなものはありません。

地域的にも大きな差はないようです。ただ、「カカ子」のないのは、三重、滋賀、鳥取、島根、岡山、高知、の6県で、「ひひ子」がないのは、広島、香川、の2県でした。やや地域的なものがあるかも知れませんが、すなわち、西日本、特に、中・四国にないようではありますが、全数がそんなに多くないので、あまりはっきりとは言えません。

なお、漢字を「漢」としますと、「漢ひ子」や「ひ漢子」とここで決めたのは、北海道の「衣ぬ子」（キヌコ、S30-）、群馬の「と志子」（S2-）、東京の「と志子」（T）、「よ志子」（T）、「志げ子」（S2-）、愛知の「志づ子」（T）、三重の「志げ子」（S6-）、兵庫の「ち江子」（S2-）、の8人です。特に「志」は前にも書きましたが、変体仮名の意識で、したがって心情的には「ひひ子」なのでしょう。この8人を「ひひ子」とすると、合計で617、4.61%となります。

「-子」であるのに-コと読まない名まえもあります。資料では2人で、神奈川の「羽衣子」（ハイネ）さん（S40-）と静岡の「亜利子」（アリス）さん（S60-）です。ともに外来名風です。もちろん、-コと読まないのですから今回の集計には入っていません。

「-子」のものとしては、他に2音節2字があります。総計では「音子」が18、「訓子」が6あります。これらをすべて挙げますと、次のようにな

ります。

「音子」は、福島Hで「貴子」(キコ)、千葉S60-で「華子」(カコ)、東京S21-で「世子」(セコ)、Hで「理子」(リコ) 3人、「阿子」(アコ)、で東京は計5人、神奈川はすべてHで、「莉子」(リコ)、「理子」、「沙子」(サコ) 各1人、兵庫S35-で「理子」、S45-で「亜子」(アコ) 計2人、奈良H「亜子」、岡山H「理子」、愛媛S55-「麻子」(マコ)、福岡S40-「治子」(チコ)、S45-「麻子」計2人、宮崎S45-「理子」、です。

「訓子」は、東京H「菜子」(ナコ)、愛知H「菜子」、大阪S45-「吾子」(アコ)、兵庫H「真子」(マコ)、徳島S50-「真子」、鹿児島S60-「吾子」です。兵庫の「真子」さんは秋篠宮家の「真子」さま誕生のS3年の年末の生まれです。

2音節の「音子」も「訓子」のどちらも非常に新しい傾向であることは(その1)で述べたとおりです。

「-子」ではなく「ひこ」では宮城のH「りこ」があります。

なお4音節2字では「訓子」しかあり得ません。埼玉H「薫子」(カオルコ)、神奈川S45-「忍子」(シノブコ)、同H「桜子」(サクラコ)、香川S60-「桜子」、と計4人でした。また、4音節には「ひひひ子」がありまして、これは東京S35-の「ひかり子」でした。

その他の-コについて

一部ではすでに述べたものもありますが、名まえの最後がその他の-コの人についてまとめてみます。

2音節2漢字で、-子のつかないのは、宮城の「香好(カコ、S35-)」、千葉の「里湖(リコ、S50-)」と「亜湖(アコ、H)」、滋賀の「真幸(マコ、

s45-) 熊本の「亜紀（アコ、H）」となっています。5人のうち2人が「-湖」です。「亜紀」は普通はアキですが、ここではアコとなっています。余談ですが、アキの「亜紀」は普通は女性名ですがけれども、わたしの知っている若い男性歌人の本名で「亜紀」があります。聞いてみたら、生まれたときに父君が知人の詩人（「迷子の迷子の子猫ちゃん」の作詞者）に依頼して命名してもらった、ということでした。

3 音節1字の名まえはすべてミヤコで、神奈川の「京」さん（H）だけが「京」で、あと9人はすべて「都」さんでした。北海道（S60-）、岩手（S55-）、埼玉（S40-、S60-）の2人、大阪（S40-）、岡山（S55-）、福岡（S25-、S60-、H）の3人でした。

普通はこれは-コの中には入れないものかも知れませんが、命名の場合女子だから-コにする、という意識のあった人もあるのではないのでしょうか。

3 音節2 漢字は17人です。北海道S30-の「静香（シズコ）」、宮城S50-の「陵誇（リョウコ）」、群馬S60-の「聖湖（セイコ）」、千葉S45-の「有功（ユウコ）」、同じくS50-の「優湖（ユウコ）」、東京のS30-の「清香（セイコ）」、同じくともにS45-の「祐古（ユウコ）」と「幸亨（ユキコ）」、富山S50-の「良香（ヨシコ）」、石川S45-の「清庫（キヨコ）」、静岡S40-の「良好（リョウコ）」、愛知S45-の「貴花（タカコ）」、兵庫S21-の「貞姫（サダコ）」、徳島S45-の「貴光（タカコ）」、同じくS55-の「紀香（ミチコ）」、愛媛S30-の「洋江（ヨウコ）」、宮崎S45-の「令江（レイコ）」がこれです。

-コと読ませた漢字は、「香」4人、「湖」「江」2人で、あとは1人ずつ、「誇」、「功」、「古」、「亨」、「庫」、「好」、「花」、「光」、「姫」、となります。

わたしの知っている女性で「久五」という人がいますが、これはヒサコと読みます。しかし、上に述べましたようにわたしの資料では「五」をコというのはありませんでした。

なお、ここで述べた「良」や「幸」は、前のこの二つの漢字の読みの数には入っていません。

生年階層はS30-からS55-までです。S50-やS55-などに多く見られますが、S50-は総数がそれほど多くないのに、3人もあるし、S45-は総数が多いものの7人もあって、この年あたりにピークがあるようです。

地域別では、兵庫、徳島、愛媛、宮崎の計5人だけが西日本で、他は愛知までの東日本となっている点が注目されます。しかし、全部の数がそう多くないので、生年とともにそれほどはっきりとは言えません。

3音節3漢字で-子のつかないものは、静岡S40-の「左千呼(サチコ)」、愛媛S35-の「美奈川(ミナコ)」、福岡S21-の「日出湖(ヒデコ)」の3人となっています。コと読む漢字にさらに「呼」、「川」が加わることになります。

今後の計画

「-コ」については、3音節2漢字という大きな部分を除いて発表は終わりました。今集計中のものは、女性名接尾辞の「-エ」、「-ヨ」、「-ミ」、「-カ」です。

「-エ」は、「-コ」と並ぶ有力なものですが、もともと「-コ」よりずっと少なく、「-コ」と同様、だんだん減っています。「-エ」については集計はほとんどできていますが、「-エ」の文字ごとの集計はまだ進行中です。「-コ」の漢字が上に見ましたように、圧倒的に「-子」であるのに比べれ

ば、「-エ」は、「-江」、「-枝」、「-恵」など多くの表記があり、集計が複雑になります。

「-ヨ」は、それほど多くはありません。これもだんだん減る傾向にあります。表記としては、「-代」と「-世」とが二つの大きな勢力ですが、前者の方が多いようです。

「-ミ」と「-カ」とは新興勢力ですが、「-ミ」はそれほど新しくはなく、昔からある程度はありました。今上昇中でしょう。表記は「-美」が圧倒的で今や女性名接尾辞の代表になっている感があります。

もっと急上昇中なのが「-カ」だと思います。「-カ」は昔はあまりなかったのですが、今は相当多くなってきました。このことを実感したのは、「フミコ考」のために資料を集めていたときです。特にS60-やHという新しい時代になると「フミコ」よりもむしろ「フミカ」の方が多くなってきました。この時は集計はしませんでした。今改めて集計を始めてみたところです。

以上のものについては次の機会を得て報告をしたい、と思っていますが、本号をご覧の方々はお分かりのように、わたしは本誌に登場するわけには参りません。本来ならば集計謝金の一部を本学に仰ぎましたので、本学関係に発表するのが筋でありましょうが、それができないのは誠に残念であります。上にも述べましたように、すべて集計の遅れ故でありました。